

グリスロで実現する 脱炭素と地域課題解決



市中心部のかさ上げ地を試走する小型電動車（16日、陸前高田市）＝黒山幹太撮影

1. そもそもなぜグリスロ？
2. 私たちが解決したい地域課題
3. 解決策としてのグリーンスローモビリティ
4. 地域に愛されるモビリティに向けて
5. 推進体制と課題
6. 次のチャレンジ（脱炭素先行地域、雇用創出＝EVメーカー立上げ）

2024年11月29日
一般社団法人陸前高田グリーンスローモビリティ

陸前高田市について

【市のプロフィール】

- ・ 三陸海岸の南の玄関口
- ・ 市の面積：231.94km²
- ・ 人口：17,318名
- ・ 高齢化率：約40%
- ・ 年間を通じ比較的温暖



中心市街地の航空写真 (2008年)

【東日本大震災による被害の概況】

- ・ 人的被害：1,759人（当時の人口の7.3%）
- ・ 全半壊家屋：4,046世帯（総世帯数の50.4%）
- ・ 最大津波浸水高：17.6m
- ・ 津波浸水面積：13km²



中心市街地の航空写真 (2011年6月)

1. そもそもなぜグリスロ？

- ・ マッターホルンのふもとの町、ツェルマットでは、環境を守るため約50年前からEVのみ
 - ・ ゆっくり走っているのに、バスの中には自然に会話が生まれてきます
- 35年前、初乗車 『君はどこから来たの?』と声を掛けられ、心が温かくなりました



【スイス】 ツェルマットの電気バス Electric bus of Zermatt, Switzerland (2014.4)



3. 解決策としての「グリーンスローモビリティ」

群馬県桐生市
Think Together
社製 eCOM-4

乗客6名定員、
シートベルト
不要



時速20km未満
で走る低速の
小型電動バス

満充電の走行
距離は約50km

導入の
経緯

2019

実証事業①
(環境省補助)

2020

実証事業②
(国交省補助)

2021

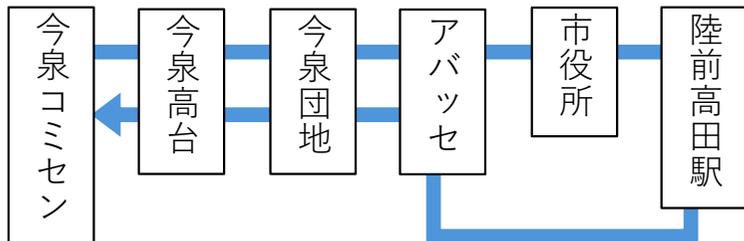
市が2台購入
(環境省補助)

2022

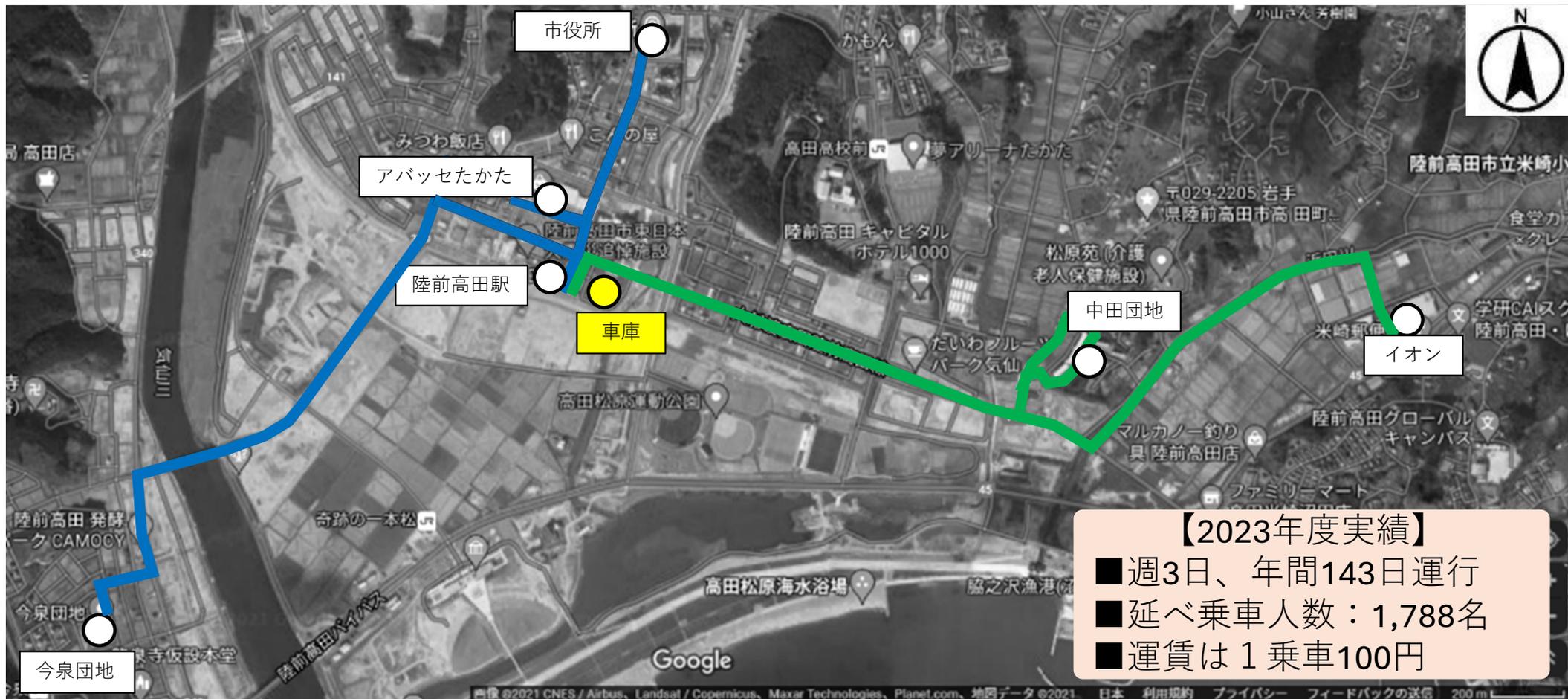
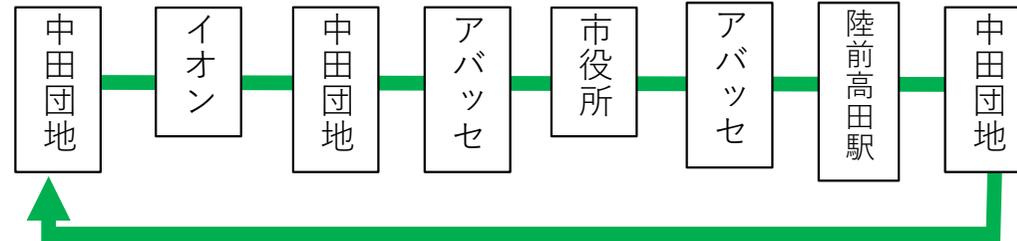
本格運行
開始！

災害住宅等と買い物拠点をつなぐ2ルートで運行

今泉・まちなか循環線



中田団地循環線



【2023年度実績】

- 週3日、年間143日運行
- 延べ乗車人数：1,788名
- 運賃は1乗車100円

4. 地域に愛されるモビリティに向けて新たな連携事業 「スローショッピング」サポート



(写真) マイヤ滝沢店の様子



(写真) マイヤ滝沢店の様子

交通手段に困る方は
ご相談ください

高齢者がゆったりとお買い物ができる スローショッピング ご利用下さい

利用は無料
詳しくは
下記まで

介護や認知症に
ついての相談も
できます。

たとえ
何も買わなくても
買い物は楽しい!

ボランティア
(パートナー)が
お伴します

ボランティアはどんなことをするの?
買い物への不安がある高齢者にパートナーとして寄り添い、会話をしながら品物選びを楽しみ、あせらず会計ができるよう見守ります
結果的に何も買わなくても構いませんし、図書館の利用でも構いません

いつするの?
・毎週 木曜日
(祝日・お盆・年末年始を除く)
・午後1時～3時

どこで?
・アバッセたかた各店舗内
・市立図書館

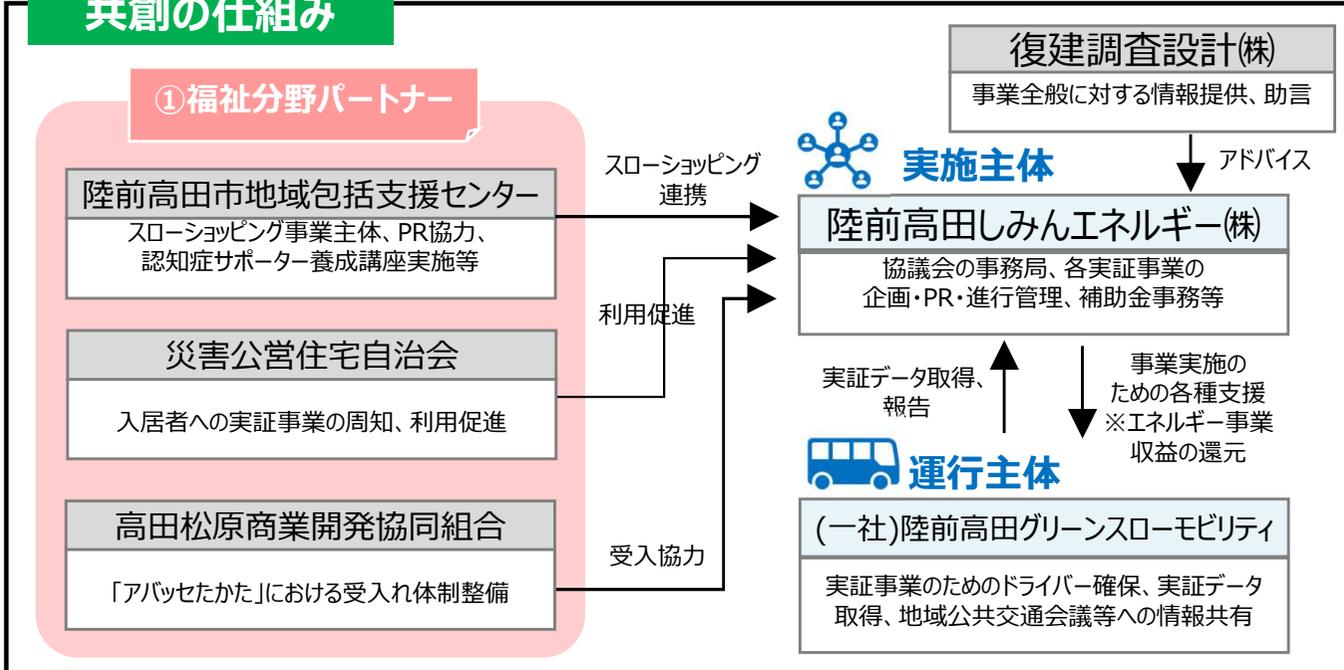
どこにいけばいいの?
★アバッセたかた内のパブリックスペースにおいて下さい (ボランティアがお待ちしております)
★ご家族等は、別に行動して構いませんし、パブリックスペースでくつろいでいても構いません

この看板が目印です

【課題】素晴らしい取組である一方、令和5年度は1日あたり利用者は平均1.5人と伸び悩み

令和6年度 共創・MaaS実証プロジェクト（福祉×交通）

共創の仕組み



(出所) R6.8.9付 東海新報1面

取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

陸前高田グリーンスローモビリティが、災害公営住宅と「アバッセたかた」を結ぶ企画バスを運行し、スローショッピングの新たな利用者の確保につなげる。その際、自治会と連携することで、潜在的支援ニーズを持つ高齢者へのアウトリーチを効果的に行う。高田松原商業開発協同組合は、支援ニーズを持つ高齢者による利用増加を見据え、ハード・ソフト両面の受入れ体制を再整備する。

(実証事業により見込まれる効果)

毎週木曜午後に実施しているスローショッピングの利用者が増加（R5実績：1.5人/日平均→本事業目標値：5人/日平均）。また、移動・買い物の満足度は80%以上を目指し、リピート利用を促すことで高齢者の外出機会を増やし、フレイル予防に貢献する。

R6 スローショッピング実績

	利用者数			備考
	買い物	くつろぎサロン	何でも相談	
実証開始前	21	21	6	来場: 1.6人/回 (18日間)
実証開始後	12	17	2	来場: 3.7人/回 (7日間)

楽しく「おでかけ」したその先に、選択肢としてのスローショッピングがある状態を創出

地域の足・観光の足として、愛されるモビリティを目指して



【EST交通環境大賞 環境大臣賞！】

<主な受賞理由>

- ・震災復興の過程で生じた高齢者の孤立や観光客の回遊不足という課題に対し、解決ツールのひとつとしてグリスロを活用している点を評価
- ・地域電力会社の収益の一部をグリスロの運行経費に還元し、持続的な運行に対応している点が独創的

【第5回 脱炭素先行地域として選定！】

陸前高田市が環境省の脱炭素先行地域に選定され、グリスロについても5年間で追加導入していく計画となっています。

(陸前高田しみんエネルギー(株)は共同提案者の中核的位置づけ)

被災跡地活用、人材育成、農業振興

被災跡地を活用した大規模営農型太陽光発電 電気保安人材の育成 ＜岩手県陸前高田市＞

- 農地回復が難しい津波被災跡地を有効活用し、ポット式根域制限栽培を採用した果樹栽培と、太陽光発電事業を組み合わせ、「営農“強化”型太陽光発電」(ソーラーシェアリング)を導入し、脱炭素化を図る。
- 不足している電気保安人材を確保するため、地域新電力会社や県、管理技術者協会等と連携し資格取得支援を行う。

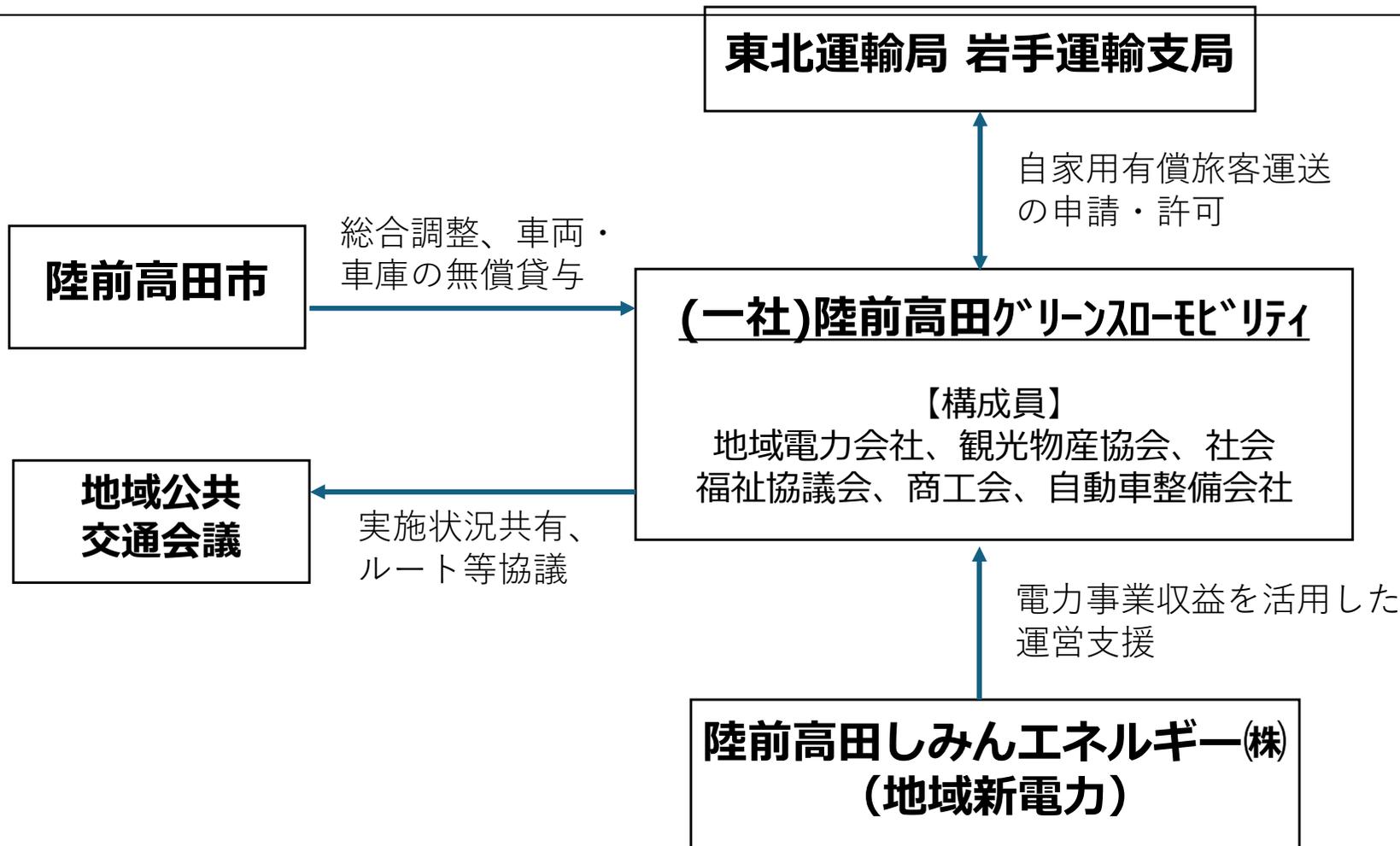
【設備シェア】
・パネルが雨よけとして機能(袋かけ作業が不要)
・ワイヤーに枝を誘引。
(ブドウ棚の投資が不要)



ポット式根域制限栽培
営農“強化”型太陽光発電設備
(ソーラーシェアリング)の様子

5. 推進体制と課題

- ・ 今後の課題は、市民の皆さんの**認知度向上と合意形成（主体的な参加）**です
- ・ ベースの課題は運営資金ですが、それは**地域新電力**が担っています



陸前高田しみんエネルギーの概要

- ・ 地域循環（経済＋環境(脱炭素)＋コミュニティ＋文化）の担い手として設立
- ・ 考え方は、ドイツの地域エネルギー公社（シュタットベルケ）です
- ・ 売上は地域外に流出している地域エネルギー費（市内合計46億円、23年度当社売上約4.5億円）

【概要】

- 創立：2019年6月19日
- 株主：

(株)クールトラスト	35%
(株)長谷川建設	35%
陸前高田市	10%
小出 浩平	5%
大林 孝典	5%
ワミオ・ガニックラント(株)	5%
村上製材所	2.5%
(有)小林電設	2.5%
- 代表取締役：小出 浩平
- 社員：10名＋グリスロサポーター7名

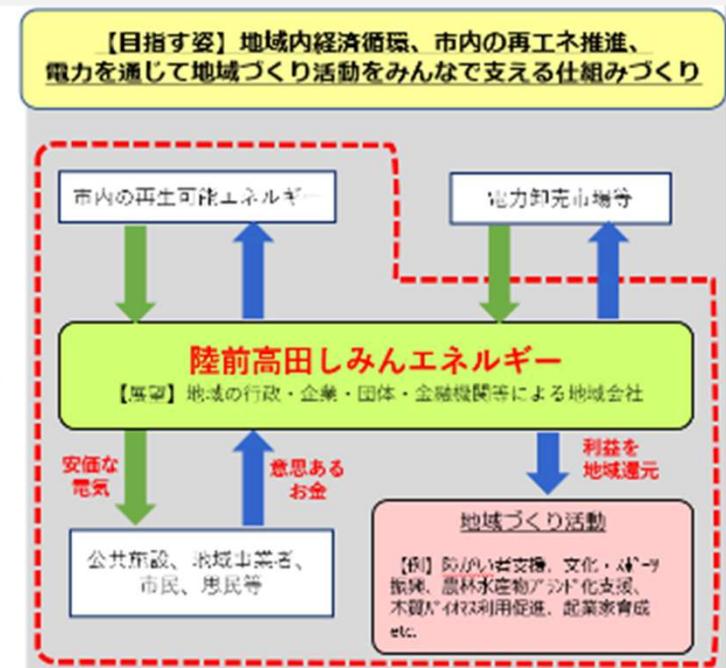
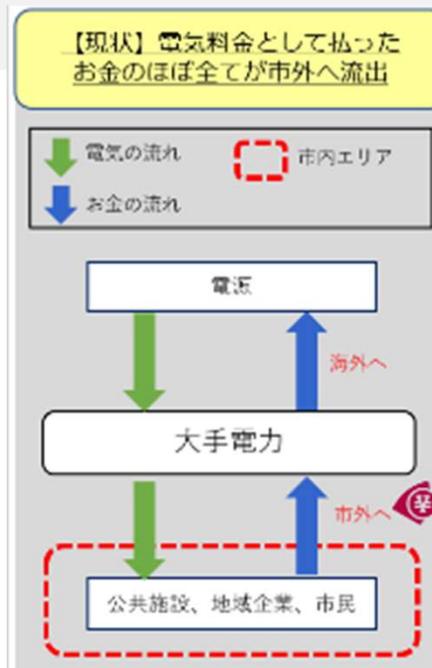
【設立経緯】

東日本大震災の経験から、市として災害時における電力確保と、平常時の再生可能エネルギーの活用やエネルギーの地産地消について様々な検討を進めておりました。

このような中、市内の電力供給及び再エネ導入促進等の実施を通じて、地域内経済循環及び電気料金低減等が見込まれることから、地域企業と市の出資を得て会社設立に至りました。

【これまでの取組】

- 19年 市内公共施設（高圧）電力供給開始
循環型推進協議会設立（事務局、継続）
- 20年 公共施設(低圧)供給開始（全施設供給）
- 20年 カモシー設立に参画(薪ストーブ設置)
- 20年 地域づくり団体(レトコ・カ・パットプロジェクト等)への資金応援実施
- 21年 グリーンスローモビリティ(2台)運営受託
- 24年 環境省脱炭素先行地域(第5回)採択・・・等



6. 次のチャレンジ（脱炭素先行地域、雇用創出＝EVメーカー立上げ）

脱炭素先行地域の選定状況（第1回～第5回）

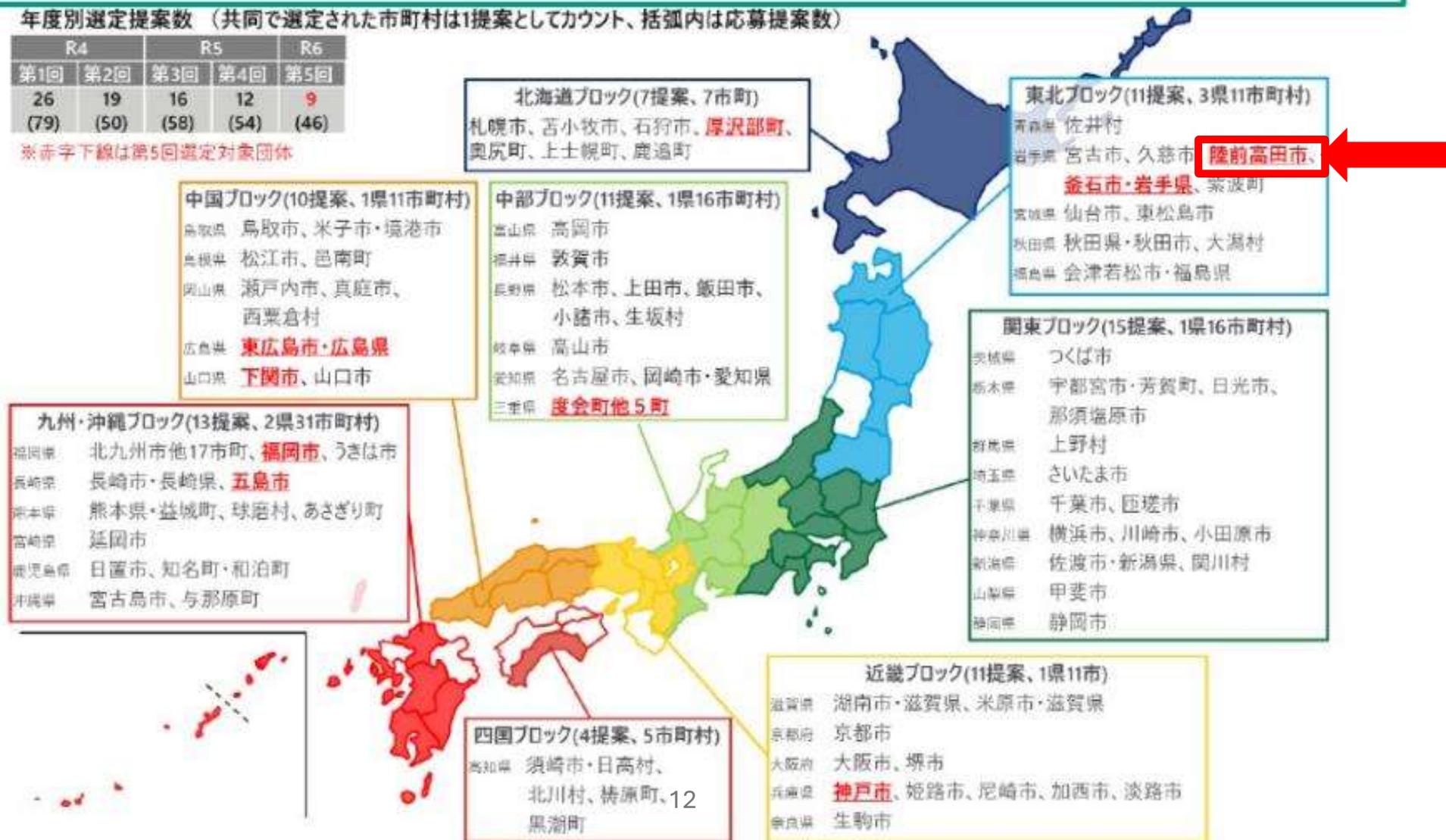


- 第5回において、**9提案（2県14市町）**を選定。
- 第1回から第5回までに、全国38道府県108市町村の**82提案**となる。

年度別選定提案数（共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数）

R4		R5		R6
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
26	19	16	12	9
(79)	(50)	(58)	(54)	(46)

※赤字下線は第5回選定対象団体



主な脱炭素の取り組みのマップ（2019年以降）



木の駅プロジェクト



屋根に太陽光発電



夢ア-ナ太陽光と蓄電池



市民発電所(収益還元)



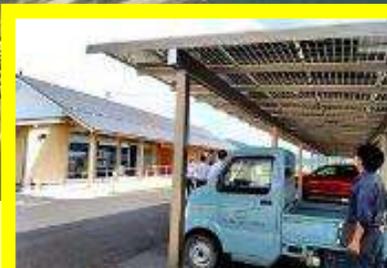
民間施設に電力供給



公共施設に電力供給



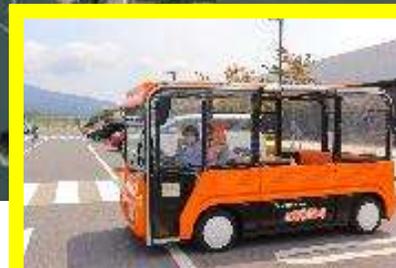
カモシー薪ストーブ



カーポート太陽光



畑に太陽光発電



モビタ運行！

6. 次のチャレンジ（脱炭素先行地域、雇用創出＝EVメーカー立上げ）

- ① ECOM4は、桐生市のシンクトゥゲザー社が開発し、全て**群馬県内産資材**を活用
- ② 写真はシンクトゥゲザー社のECOMmini、**3時間充電50km走行、非常時電源活用可**
- ③ シンクトゥゲザー社の協力を得て、**陸前高田での製造**を目指して準備中
- ④ 各所に**営農型太陽光発電**を計画中、自然エネルギーでのエコドライブを目指します

